

内定者の声

～試験対策&プロフィール&官庁訪問体験記～

平成31年度環境省総合職事務系内定者

目次

1. 区分別試験対策	p.3~
(参考) 採用者/内定者の区分別内訳	p.4
・教養区分	p.5~8
・法律区分 (学部)	p.9~11
・経済区分 (学部)	p.12~13
・行政区分 (院卒)	p.14~16
2. 内定者プロフィール&官庁訪問体験記	p.17~
・S.O (東京大学)	p.18~21
・S.O (名古屋大学)	p.22~25
・K.K (慶応義塾大学)	p.26~29
・M.K (東京大学)	p.30~33
・Y.K (東京大学)	p.34~37
・A.K (関西学院大学大学院)	p.38~41
・K.K (東京大学)	p.42~45
・M.F (京都大学大学院)	p.46~49
(参考) 官庁訪問の1日の流れ	p.50
(参考) 官庁訪問中の服装について	p.50
3. 内定者の「今だから言えること」	p.51~56
おわりに	p.57

はじめに

環境省を志す皆さま、こんにちは。本冊子を手にとって下さりありがとうございます！

環境省にちょっと興味がある、どんな人が内定者にいるのか気になる、既に環境省を第一志望に決めている…様々な方が様々な思いをもって今このページに目を通していただいていることなのでしょう。私たち内定者も、前年度の「内定者の声」を勉強の合間や官庁訪問前に読んで、力をもらっていました。息抜きに、また時にはモチベーションアップに、活用していただけたらと思います。

1. 区分別試験対策

1. 区分別試験対策

(参考) 採用者/内定者の区分別内訳

2014~2018年度の総合職事務系の採用者、および2019年度の内定者の区分別内訳は下記の表の通りです。ご覧の通り、年度によって区分別の内訳も採用者数もかなり異なることが分かります。

単位：人

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教養	1	0	1	0	0	3
法律	6	7	2	2	1	2
経済	1	3	1	2	3	1
政治・国際	0	0	0	1	1	0
行政（院卒）	2	2	2	0	2	2
合計	10	12	6	5	7	8

なお女性比率については以下の通りです。

単位：人

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
女性/全体	3/10	4/12	3/6	2/5	2/7	3/8

教養区分 (担当：S.O、M.K、K.K)

≪試験の概要≫

①試験日程

2017年度は1次試験が10月1日、2次試験が11月14日・15日でした。

②試験科目

1次試験：

- ・基礎能力試験Ⅰ（2時間、配点3/28）
文章理解8問＋数的処理16問
問題数が多く、効率的に解くことが求められます。
- ・基礎能力試験Ⅱ（1時間30分、配点2/28）
自然科学9問＋人文科学9問＋社会科学9問＋時事3問
基本的に知識の有無が問われるのみであるため、時間に余裕はありますが、とても幅広い範囲から出題されます。
- ・総合論文試験（4時間、配点8/28）（※評価は2次試験の際になされます。）
企画立案の基礎となる考え方や、具体的な政策課題に関する問題が2題出題されます。

2次試験：

- ・企画提案試験（Ⅰ部：2時間、Ⅱ部：25分、配点5/28）
参考資料を基に企画を立案し、実際に2人の面接官の前でプレゼンテーションを行います。Ⅰ部で小論文を書き、Ⅱ部で小論文に基づきプレゼンテーションを行います。
- ・政策課題討議試験（Ⅰ部：20分、Ⅱ部：約1時間、配点4/28）
与えられた政策課題に関してA、Bのいずれかの立場を選択し、議論・発表します。
Ⅰ部で自分の意見をまとめたレジюмеを作成し、Ⅱ部で議論・発表します。
- ・人物試験（20分、配点6/28）
3人の面接官から、志望動機や自己PRなどを質問されます。

③試験の特色

専門的な内容を問われる試験ではないため参加するハードルが低く、また実施時期が秋であり、春に行われる他の試験区分と併願できるため、全ての人におすすめです。特に、春の試験区分に自分の専攻が入っていない人などにおすすめできると思います。

1. 区分別試験対策



S.O

4月：1次試験
勉強開始

7月：大学試験

8月：民間企業のインターン、大学の集中講義

10月：2次試験
勉強開始



(2017年度、20位台/135名)

	1次試験	2次試験
対策開始時期	本格的に対策を開始したのは3年生の春からです。	本格的に対策を開始したのは1次試験終了後からです。(10月2日から)
勉強の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎能力試験 I 文章理解及び数的処理は予備校の講義で基礎力をつけ、その後は過去問を解き問題に慣れるようにしていました。本番の1ヶ月前から、数的処理は毎日2、3問、文章理解は毎日1問過去問を解くようにしていました。 ・基礎能力試験 II 範囲が幅広いので、全分野を勉強することはせず、数学の復習をし、興味のある思想・物理・日本史などを気分転換も兼ねて勉強する程度にとどめていました。時事に関しては、2週間前から時事問題の参考書を2冊購入し、一通り目を通しました。時事問題が3問出され、政治・社会・経済などの問題であっても時事に絡めたものが出題されることが多いため、直前期は時事に多く時間を割いていました。 ・政策論文 予備校の論文添削を利用しました。得点は2次試験に使用されることもあり、政策論文にはあまり時間を割かず、基礎能力試験の勉強に時間を割いていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画提案試験 掲示された参考資料から出題の予想がある程度可能なため、予想される問題に対する解答を考えておくことが重要だと思います。私の年度では参考資料として厚生労働白書、労働経済白書、及び国連の移民に関する報告書が挙げられていたため、日本の労働力人口に関連する問題が出題されると考え、白書や労働政策の本を読み思考を整理していました。 ・政策課題討議 グループディスカッションであるため、同じ形式のものに慣れておくことが重要だと考え、友人と練習を行ったり、予備校の模擬討議を利用したりしていました。 ・人物試験 一般的な面接であるため、志望動機や自己PRを整理し、模擬面接などを活用しました。

特によかったと思う対策法

政策課題討議や企画提案試験、人事院面接は対人試験であるため、実際に模擬体験しておいたことでイメージを持つことができ、リラックスして臨むことができたと思います。

民間就活・学業との両立のコツ

夏休みは試験勉強の気分転換に、民間企業の2つのインターンと3日間の大学の集中講義に2つ参加しました。自分なりの気分転換の方法を見つけられると良いと思います。

おすすめの息抜き

友人とご飯を食べに行き、リフレッシュしていました。



M.K

(2017年度、50位台/135名)

6月：アメリカ留学
 8月～9月前半：民間企業のインターン
 9月後半：1次試験勉強開始
 10月：2次試験勉強開始



	1次試験	2次試験
対策開始時期	対策に時間をかけてもかけなくても結果はあまり変わらないように思い、受験2週間前に対策を開始しました。(試験当日、答えを絞りきれなかった数的処理の7問について全て3と回答したところ、5問も当たりました。これがなかったら受かっていなかったかもしれないことは正直にお伝えしておきます。)	1次試験が終わってから対策を始めました。
勉強の仕方	数的処理を中心に基礎能力試験Ⅰの過去問を解きました。基礎能力試験Ⅱは知識量が問われ対策のコスパが悪いため、ほとんど勉強しませんでした。	人物試験については、面接カードを省庁内定者の先輩に見ていただきアドバイスを頂きました。面接自体の練習はしていません。企画提案試験については白書の概要を読み、同級生と2回ほど集まって各自のアイデアのブラッシュアップを行いました。政策課題討議については、過去問を素材に一度同級生と練習しました。

特によかったと思う対策法

面接カードを先輩に見てもらうのはおすすめです。私は省庁に内定を得た先輩や前年度に教養区分を合格された先輩に添削をお願いしました。特に「全設問を通して自らの人となりを軸として示すべし」という面接官の視点のアドバイスは非常に役に立ちました。

民間就活・学業との両立のコツ

教養区分試験は対策に必ずしも時間がかかるわけではないので、夏休みに民間企業のインターンに参加したり秋学期に授業を多くとったりしても問題ないです。ただ個人的には2次試験前の時期に冬の海外プログラムの準備に追われていたのが少々辛かったので、予定を詰め込むのはおすすめしません…。

おすすめの息抜き

ネットで過去の受験者の体験談を読むのは有意義な息抜きだったかなと思います。

1. 区分別試験対策



K.K

(2017年度、50位台/135名)

~7月：大学定期試験

8~9月：1次試験対策

10~11月：2次試験対策



	1次試験	2次試験
対策開始時期	8月(2か月前)	10月(1か月前)
勉強の仕方	<p>基礎能力試験(I部)対策としては、先輩からもらっていた予備校の問題集(数的処理・判断推理)を1周分使いました。問題集から複数問を選び、本番の試験と同様のセットを作って時間内に解けるかということを繰り返しました。II部対策は苦手な分野を中心に過去問集を1周、時事対策では参考書を流し読みしました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画提案試験 論題が1次試験合格発表と同時に発表されるので、分かり次第指定された白書を読み込みました。白書はダウンロード版だと書き込みできないと思ったので、冊子版を購入して赤ペンや蛍光ペンでマークし、現行の施策の問題点・課題を探しながら読むようにしました。考えた企画は官僚になっていた同期・先輩に見てもらって、アドバイスを頂くようお願いしました。また、予備校でも模擬試験を行ってもらって、ダメ出しを頂きました。 ・政策課題討議 予備校で1度模擬試験を行いました。対策はそれだけです。前年この試験を受けていたときは、自主ゼミのメンバーや有志で複数回にわたってグループディスカッションを行いました。 ・人物試験 予備校で面接カードの添削+模擬試験を2度行い、ダメ出しを頂きました。また、先輩(官僚)にも面接カードを一度見て頂きました。

特によかったと思う対策法

教養試験は自分の意見を深めたり、相手にわかりやすく伝えたりする能力が問われている試験です。なので、自分のアウトプットを他人、特にその道のプロに見てもらって、フィードバックを頂くことが重要だと思います。私の場合、予備校や先輩・同期の力を借りることができたことが大きかったと思いますが、そうでなくても誰かほかの人にみてもらうことが大事だと思います。自分の考えをその通り相手に説得力ある形で伝えることは思ったより難しいことですから…。

民間就活・学業との両立のコツ

教養試験は大学の定期試験とスケジュール的にぶつからない時期なので、両立について悩むことはありませんでした。また、私の場合は就職留年していたこともあって、大学の単位はほぼ4年までに取り終え、春は休学して民間就活に専念していましたが、そちらの勉強はほぼしないで民間就活のみやっていました。

おすすめの息抜き

試験期：サークルの飲み会に毎週顔を出し、また趣味の時間を必ずとるようにしていました。ずっと試験問題について考えていると気がめいったり行き詰まったりするので、特に2次試験対策期は他分野のニュースにも触れ、新聞をよく読むようにしていました。何気ないところにアイデアの種が落ちていることはよくあります。

民間就活期：私の場合、業界を絞らず幅広く受けていたので、様々な業種で一線級として働く社会人の話を聞けることがそのまま楽しかったです。リクルーター面談でも説明会でも、滑り止めに受けていると思うことで気楽に臨めたと思います。

法律区分（学部）

（担当：S.O、K.K）

≪試験の概要≫

①試験日程

1次試験：4月29日 →合格発表5月11日

2次試験：筆記試験5月27日

人物試験5月29日～6月15日のどこか（私は5月30日でした）

→合格発表6月29日

②試験科目

1次試験：基礎能力試験（多肢選択式）40題、3時間

専門試験（多肢選択式）40題、3時間30分

2次試験：専門試験（記述式）3題（私は憲法・行政法・民法を選択しました）、4時間

政策論文試験 1題、2時間

人物試験

③試験の特色

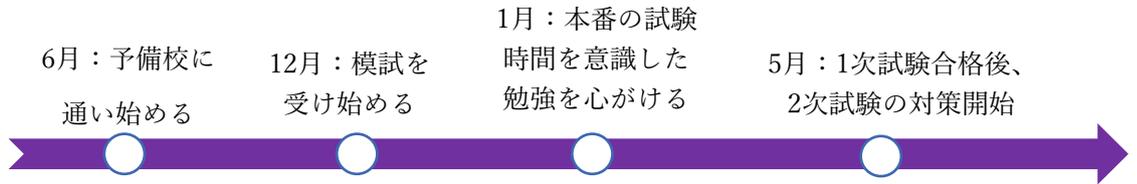
法律区分は誰でも受けやすい区分だと思います。私は法学部でしたが、大学の講義やゼミの大半は政治学であったため、法律についてはほぼ初学者でした。それでも、法学を1から学び、この試験に合格するための勉強をした結果、国家総合職試験に合格することができました。また、私の周りを見ても、法学部でない人が法律区分で多数合格しております。したがって、大学で経済学を勉強している人や、政治学・国際関係によっぽど自信がある人以外の人にとっては、法律区分がもっとも無難と言えるのではないのでしょうか。

1. 区分別試験対策



S.O

(2017年度、250位台/504名)



	1次試験	2次試験
対策開始時期	試験前年の6月から予備校へ通い始め、11月くらいまでは「講義→学習範囲のみ問題集を解く」の繰り返しのみをしていました。勉強らしい勉強に着手したのは焦りが出始めた年末からだったと思います。	1次試験終了後から始めました。結果だけ見ればなんとかなりましたが、全くオススメしません。年明けくらいからコツコツやることを強くオススメします。
勉強の仕方	予備校のテキストと問題集をやりこみました。学部は理系ですが法律区分で受験を考えたため、独学ではなく予備校を利用することにしました。法律・経済・政治など多くの文系科目を初めて学んだため、「なぜそうなるんだろう」と思うことが多々ありましたが、あくまで試験合格が目的だと割り切って深く考えず、暗記するところは暗記し、理解はあまりしていないけど問題は解ける状態に持っていくことを意識していました。また、至る所で言われていることではありますが、全科目共通して勉強法は「同じ問題集をひたすら回す」に限ると思います。個人的に勉強は量より質が重要だと思っていましたが、こと公務員試験に関しては量の方が重要なかもしれないと経験して思いました。	専門記述対策としては、予備校で頂いた模範解答が載っている本をひたすら読み、実際に答案を書くことはせず答案構成のみやったことが時間の節約になったと思います(もちろん最適なのは実際に答案を書き添削してもらうことが一番だと思います!)。法律の記述問題は解いたことがなく、また対策できる期間も3週間ほどしかなかったため、短時間で薄く広く学ぶ方法を考えた結果がこれでした。政策論文は対策していません。

特によかったと思う対策法

1次試験に関しては、上述の通り勉強量を重要視していたため、「試験当日までに問題集を5周する」といった具体的で量的な目標を立てていました。試験までの残り期間から逆算して1日あたりに解く問題数を管理し、それを達成することで達成感を得て少しでもやる気が維持されるよう意識していました。

民間就活・学業との両立のコツ

民間企業は受けていません。学業も休学して公務員試験へ臨んだため、実体験としてのアドバイスは、思い切った選択も若いうちはアリかも、くらいです。

おすすめの息抜き

ほぼ図書館で勉強していたため、試験とは一切関係のない本や雑誌を読んでリラックスしました。たまに趣味のサイクリングをして汗をかいてスッキリしていたことも良かったです。



2月：予備校に通い始める

4月：サークル活動が忙しくなる

10月：教養区分試験は受けず

12月：サークル引退→本格的に試験勉強を開始

K.K

(2018年度、150位台/471名)

3月：2次試験対策も並行して開始

4月：1次試験対策に専念

5月：2次試験対策

	1次試験	2次試験
対策開始時期	予備校に通い始めたのは2017年の2月でしたが、本格的に試験勉強に取り組み始めたのは2017年の12月でした。(もっと早く対策開始することをおすすめします…)	2018年の3月半ばに開始しました。その後、4月は1次試験対策に専念をし、1次試験終了と同時に2次試験対策を再開しました。
勉強の仕方	予備校のテキストと講義でひたすら勉強をしました。あれこれ手を出しても逆に混乱しかねないと思い、市販の参考書には一切手を出しませんでした。また、基礎能力・専門ともに暗記すべきことがたくさんあったので、科目ごとに自己流の一問一答を作成し、移動時間などによく目を通していました。	こちらも予備校のテキストと講義で勉強しました。予備校で答案の添削を何回かしてもらい、記述力を高めました。市販の参考書は一切使っていません。また、2次試験では法律用語の定義・規範・判例の言い回しなどを正確に覚えておく必要があったので、それらを単語帳にまとめ、移動時間や食事中に何度も何度も目を通していました。

特によかったと思う対策法

1次試験対策としては、自己流の一問一答を作って空き時間にそれを繰り返し見ていたのが良かったと思います。1次試験は基礎能力も専門も出題範囲がとても広いので、一問一答のようにいつでも体系的に復習できるものがあると良いと思います(ただし、最初からやみくもに暗記に走るのではなく、まずは「覚える」より「理解する」というイメージを持っておいた方が良いと思います)。2次試験対策としては、覚えるべき定義・規範・判例の言い回しなどを単語帳にまとめ、空き時間に何度も目を通していたのが良かったと思います。

民間就活・学業との両立のコツ

民間就活は一切せず、国家総合職一本でした。国家公務員になりたいという思いが非常に強かったことに加え、あれこれ手を出して試験勉強がおろそかになるのを避けたかったからです。ただ、民間を色々と見てみることは純粋に面白いし、自分の選択肢を広げる良い機会になるのではないかと思います。学業との両立に関しては、公務員試験の勉強と大学での勉強を時間的にも気持ち的にもしっかり区別してやるのをおすすめします。そうすることでメリハリがつかます。

おすすめの息抜き

たまに銭湯や温泉に行ったりラックスしていました。

1. 区分別試験対策

経済区分（学部）（担当：Y.K）

◀試験概要▶

①試験日程

1次試験：4月29日

2次試験：（筆記）5月27日・（面接）5月31日

②試験科目

1次試験：

教養試験：上に譲ります（大卒程度試験はみな同じ問題）、3時間

専門試験（多肢選択式）：

必須問題 経済理論，財政学・経済政策，経済事情，統計学・計量経済学

選択問題 経済史・経済事情，国際経済学，経営学，憲法，民法（15題中9題）

3時間30分

2次試験：

専門試験（記述式）

必須問題 経済理論

選択問題 財政学，経済政策，公共政策（2題選択）

4時間

政策論文試験 2時間

人物試験

③試験の特色

経済の授業を受けたことがある人や、数学など（特に微分）が得意という人におすすめの区分です。また、経済は理論がメインになってくるので覚えることが他の区分よりも少なく、短い時間しか勉強時間を確保することが出来ないという人でも十分に間に合わせることが出来る試験区分であると思います（僕も実際2月から始めて何とか間に合いました）。



9月：教養区
分の受験準備

2~4月：1次試験の
専門試験の対策

5月初旬：東京都の
専門記述の対策

5月中旬～：2次
試験専門試験の
対策

Y.K



(2018 年度、90 位台/194 名)

	1 次試験	2 次試験
対策開始時期	教養試験 9 月のみ 専門試験 2 月	5 月中旬
勉強の仕方	とにかく過去問集をやりこみました。何周も何周もやっていく中で、だんだんと経済理論が分かってくるようになったと思います。また、統計学や計量経済学は過去問を使用して傾向をつかみ、必要な知識だけ取り入れるようにしていました。	試験委員の先生方の名前が 2 月に官報で発表されているので、その先生方が書かれた本を読み込むということを中心に行っていました。また、時折記述に慣れるために過去問を解くということも行っていました。 政策論文試験については過去問を見る、また政策論文用の参考書があったのでそれを参照していました。

特によかったと思う対策法

テキストを繰り返すという作業は非常に有用であったと思います。知識が定着しやすく、何度も通すことによって、俯瞰的に経済学をとらえることが出来るようになったと思います。経済学はあまり添削の必要はないのではないかなと個人的には思います。

民間就活・学業との両立のコツ

早い時期から始めることでしょうか(笑)。僕はぎりぎりの時期に始めたので、あまり民間就活に力を入れることが出来なかったように感じます。もう少し民間も見回ってよかったのかなと少し後悔しています。

おすすめの息抜き

特におすすめというものはないですが、映画を観るなどの息抜きをしてもいいと思いますし、就活をやっている大学の同期などと就活にあまり関係ない話をするなどしてストレスを発散することもよいのかなと思います。

1. 区分別試験対策

行政区分（院卒）

（担当：A.K、M.F）

◀試験概要▶

①試験日程

1次試験： 4月29日（日）

2次試験：（Ⅰ）5月27日（日）

（Ⅱ）6月8日（金）～6月15日（金）のうち指定される日時

②試験科目

1次試験：

- ・基礎能力試験〔多肢選択式〕（知能分野と知識分野 30題、2時間 20分、配点 2/15）
- ・専門試験〔多肢選択式〕（40題、3時間 30分、配点 3/15）

2次試験：

- （Ⅰ）・専門試験〔記述式〕（3題、4時間、配点 5/15）
- （Ⅱ）・政策課題討議（約1時間 30分、配点 2/15）
 - ・人物試験（約20分、配点 3/15）

③試験の特色

大卒程度試験との違いとしては、基礎能力試験の知識分野の問題数が少ないこと、大卒の政策論文試験の代わりに政策課題討議試験があることです。人事院 HP 上では院卒者は院卒者試験で受けることが推奨されていますが、試験内容でどちらか自信のある方を選ぶのも手だと思います。



A.K

5月～：1次試験
(専門科目・数的処理) 対策

～1月：授業

1月～：一次試験
(知識分野) 対策

2月：2次試験対策開始



(2018年度、80位台/174名)

	1次試験	2次試験
対策開始時期	2017年5月から大学内の公務員講座を受講していました。2018年1月頃からは大学院の授業も終わったので腰を入れて試験勉強をしました。	記述式の専門試験対策は2月から、人物試験対策は2月頃から自己PRなどの整理を始めました。政策課題討議は特に対策しませんでした。
勉強の仕方	学内講座のカリキュラムに沿って勉強しました。授業期間中は報告や課題等で忙しいですが出来るだけ後回しにせずすきま時間を確保し、次回の授業までに必ず過去問集を使って復習していました。 1月以降は大学の図書館に通い、知識分野のWeb講義を2倍速で見でざっくりと詰め込み、また数的処理が苦手だったので出題数の多い判断推理の過去問を毎日数題解いていました。	記述式の専門試験に関しては、院卒の行政区分はロースクールの受験者が多いため法律科目の平均点が高くなること、また配点の比重も多いので特に対策しました。具体的には、基本テキストの目次から内容を思い出せるように暗記したり、15年分の過去問の模範答案例を参考にしたりして文章構成の練習をしました。

特によかったと思う対策法

行政区分の教養科目は範囲が広いわりに問題数は少ないので、(地方上級などの試験も受けたので一応勉強はしていましたが)捨て科目を作り、総合職一次試験の直前期は専門科目の知識の詰め込みに時間を注いでいました。
法律系の専門科目は3月に購入した六法の判例集を2周したことで本番で見たことのない判例と出くわすことはなかったと思います。

民間就活・学業との両立のコツ

民間就活は行いませんでした。学業に関しては、3月～7月の間は公務員試験があるため修士課程であれば入学時から卒業までのスケジュールングをしておくことが大切だと思います。指導教授に公務員試験のご理解をいただくために事前に相談をしていたこともよかったと思います。

おすすめの息抜き

志望省庁の説明会や内定者懇談会に参加すると勉強へのモチベーションが上がったのでお勧めします。
あとは友達や家族とご飯や小旅行に行ったりして生活リズムにメリハリをつけていました。(焦燥感から勉強がはかどりますが余韻に浸りすぎないように注意していました…)

1. 区分別試験対策



M.F

(2018年度、90位台/174名)

12月：予備校の模
試

1月：定期試験

2月：1次対策
開始

3月：説明会参加

就活説明会・イベントへの参加

就活早期選考

4月：ES作成、面接

5月：2次試験対策開始

6月：訪問カードの
下書き作成

	1次試験	2次試験
対策開始時期	2018年2月頃	2018年2月頃
勉強の仕方	<p>初学の政治学、国際関係(理論のみ初学)については、まず予備校の通信の授業を聞き、必要に応じてテキストに書き込みをしながら、読み込んでいきました。ただ、時間はあまりなかったので、テキストで知識を拾いながら、同時に問題集を使って演習をするようにしました。問題集の目次のページに、各章ごとの正答数を書き込み、最も正答率の低い章と毎年出題数の多い章を重点的に復習し、なんとか2周(章によっては3周)まわしました。行政学も初学でしたが、そこまで手を広げる余裕はなかったので、政治学とリンクする箇所や院の授業で多少学んだことのある箇所など、一部だけ軽くさらうことにしました。国際法は学部の時に学んでいたため、演習を中心にし、間違えた箇所のみテキストを使って確認するようにしていました。</p>	<p>①記述 一次の勉強と並行するような形で、選択する予定の科目(国際関係①・②、国際法、政治学)の予備校(通信)の授業を視聴し、予備校の模試を1回受け、答案を1回分送り、添削してもらいました。1次終了後からは、各科目の試験委員の先生の著書を読んだり、模範解答を読んで論点を把握したり、問題集を使って軽い演習(論点の書き出し)をしたりしていました。</p> <p>②人事院面接、政策討議 面接対策は、面接カードを院の同期に見てもらったり、省庁で働いている先輩に書き方のポイントを聞いたりしました。政策討議は、院の同期に何人か受験者がいたので、練習問題を使い、本番通り時間を計って数回練習しました。</p>

特によかったと思う対策法

①1次については、本番で過去問と似たような肢が出てくるのが度々あるので、過去問を繰り返すのが良いと思います。

②2次については、予備校の模試などを利用して、少なくとも1回は添削してもらった方が良いと思います。自分では書けたつもりでも、実際には問に対して求められている解答が適切にできていなかったりするので、論点の取りこぼし・ずれ等がないかを、第三者に見てもらおうと良いです。

民間就活・学業との両立のコツ

民間就活については、いくつも説明会に行ったり、選考を受けたりする余裕はないと思ったので、大学で開催される就職説明会のみ足を運び、興味のある企業を絞り込み、個別説明会にはほとんど行きませんでした。また、関西の国立大学限定の就職マッチングイベントに参加し、採用のステップをなるべく少なくするようにしました。(グループワークの評価によっては通常よりも早いタイミングで次の選考に進ませてもらえる、というシステムでした。)

おすすめの息抜き

友人と話すことと、たまに少し贅沢なお菓子を買って食べることです。また、説明会や志望省庁に関連する講義への参加は息抜きになるだけでなく、モチベーションアップにもつながったと思います。

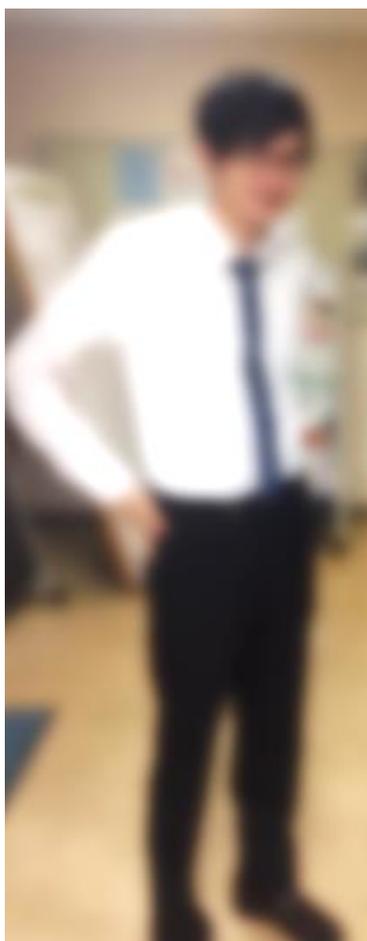
2. 内定者プロフィール &官庁訪問体験記

私にとっての環境省は...

私と共に社会をより良くしていくパートナーのような存在



S.O のプロフィール



基礎データ

出身地：埼玉県川口市

大学：東京大学教育学部 総合教育科学科

教育社会科学専修 教育実践・政策学コース

サークル・ゼミ：奇術愛好会、弁論部

特技、趣味：スポーツ（特に卓球、ボルダリング）、マジック

もっと詳しく

好きな映画：『22年目の告白』（衝撃的な展開が面白かったです。）

最近読んで面白かった本：新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』（AIに関する最新の研究内容を学ぶことができ面白かったです。）

印象的だった旅行先：中国の西安。（近代的な高層ビルなどが立ち並ぶ北京や上海とは異なり、歴史的な建造物（城壁や寺など）が多く、また内陸部の穏やかな雰囲気がとても心地よかったです。）

大学時代を振り返って

大学時代は、教育学部に所属し、教育という自身の経験のみで語られがちな分野に対して、社会科学の手法を用いて学術的にアプローチをする「教育社会科学」の勉強をしていました。

また、マジックサークルでマジックショーに出演したり、弁論部でディベート大会に出場したりしていました。

好きな言葉

「行動すべきか迷ったときは一步を踏み出して挑戦する」

座右の銘ではないですが、「行動すべきか迷ったときは一步を踏み出して挑戦すること」を大切にしています。

将来の夢

誰もが環境の大切さを感じ、豊かな環境を享受できる社会をつくりたいと思っています。

環境問題に関心を持ったきっかけ

きっかけは、中学高校時代を豊かな自然に囲まれた校舎で過ごしたことです。豊かな自然が与える喜びを自覚し、環境の重要性を認識するようになりました。

また、高校生の時に中国に留学し数十メートル先のビルが見えないほどの深刻な大気汚染を経験したことも、環境問題へ関心を持つきっかけになったと思います。

国家公務員、環境省の志望動機

国家公務員を志望した理由は2点あり、「大学時代に教育格差を目の当たりにし全ての人が幸せになれる社会をつくりたいと思ったため」、及び「マジックサークルでの活動を通して他者の笑顔に喜びを感じ、全ての人が笑顔になれる社会をつくりたいと思ったため」です。

各省庁の中で環境省を志望した理由は2点あり、「自身の原体験から環境に強い関心を持っていたため」、及び「これからの社会において幸せがモノの豊かさから生活そのものの豊かさに移ると考え、環境が極めて重要な役割を果たすことになると考えたため」です。

説明会の参加回数:20回程度

説明会やインターンで印象的だったこと

特に印象的だったものは、1日参加型の政策立案ワークショップです。ボードゲームを通してSDGsについて学ぶことがとても興味深く、またグループワークや懇親会で他の職種の方も交えて環境政策について議論できたことが刺激的でした。



環境省で働く上で楽しみなこと

職員の方々も内定者も多様であり、入省してから様々なバックグラウンドの方と一緒に仕事をさせていただけることが楽しみです。

(マジックサークルにおいて、会場準備中の写真です。)

S.O の官庁訪問

第1クールのスケジュール

1日目：文部科学省、2日目：環境省、3日目：厚生労働省

環境行政だけではなく、大学時代に教育格差を目のあたりにしたことから教育行政や厚生労働行政にも関心があったため、この3省庁を訪問しました。

環境省に入省しようと決めた理由とタイミング

官庁訪問で魅力的な職員の方々とお会いし、自分の描く社会像と環境省の目指す社会像が合っていると確信したためです。第1、第2クールを通して決めました。

官庁訪問に持っていった物

メモ帳と筆記用具に加えて、栄養ドリンク、のど飴を持っていきました。栄養ドリンクは疲労回復に役立ちましたし、のど飴も舐めることで喉を痛めることを防ぐことができ、役に立ったためオススメです。

官庁訪問前の準備

準備として、志望動機や自己PR、自分が描くこれからの社会・環境行政の在り方について整理していました。環境政策の自主的な勉強はあまりせず、説明会に参加することで環境行政への理解を深めていました。

自分のどのような部分が評価されたと思うか

環境省の既存の業務にとらわれずに、自分なりにこれからの環境行政の在り方について考え、自分の言葉で伝えるよう心がけていたことだと思います。

控室での過ごし方

面接の振り返りをしたり、同じテーブルの方と雑談をしたりしていました。

同じテーブルの方と談笑することで、リラックスでき気持ちも楽になったので、適度に話すことはオススメです。

休みの日の過ごし方

友人と会って話をしたり、これまでの面接の振り返りを行ったりしていました。

友人と談笑することは、良いリフレッシュになったと思います。

振り返っての反省点

志望動機などを、整理するだけでなく積極的に友人などに話す練習をするべきだったと反省しています。理由は、実際に口に出してみると伝わりづらい箇所もあることを官庁訪問で痛感したためです。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問では、自信を持って自分の考えを伝えることが重要だと感じました。

官庁訪問は厳しい選考プロセスであると同時に、自分の価値観・考えを職員の方に一对一で伝えることができる貴重な機会です。

今まで自分が考えてきたことを、自信を持って伝えることで、職員の方々からもより充実したフィードバックやアドバイスをいただけたと思います。

頑張ってください！応援しています。



穏やかに見えて中は非常に熱い組織



S.O のプロフィール



基礎データ

出身地：静岡県浜松市

大学：名古屋大学農学部 資源生物科学科

サークル・ゼミ：サイクリング部

特技：誰とでも話せること

趣味：サイクリング、ラジオ、1人水族館

もっと詳しく

好きな映画：『プラダを着た悪魔』（主人公が仕事に悩みつつも意欲的に成長していく姿が見ていて懂れます。）

最近読んで面白かった本：若林正恭『表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬』（大好きな芸人さんの本なのですが、テレビやラジオではお話をされていないご自身の心情が書いてあり胸に刺さりました。ちなみに泣けます。）

印象的だった旅行先：美幌峠（阿寒摩周国立公園）（ツーリング中に出会った風景の一つで、将来家族ができれば必ず連れて行きたい場所です。

好きな言葉

「みんなちがって、みんないい」

小学生の頃に金子みすゞさんの詩で学んだと思うのですが、好きで未だ忘れられず会話の中で使うことがよく有ります。多様性受け入れることをこれほど端的に分かりやすく表現した言葉もないと思います。

将来の夢

後世に残す仕事をする。

大学時代を振り返って

サイクリング部に入ったことで、どちらかというインドア派だった自分がアウトドア派になり、様々な出会いがありました。夏は名古屋から北海道へ、春は四国・九州へとツーリング旅をしていたのですが、これが非常に良い経験になりました。道中に出会ったたくさんの人や美しい自然は宝物です。今でも交流がある人もいます。

環境問題に関心を持ったきっかけ

自然が豊かな場所で育ったことがきっかけだと思います。幼い頃から当たり前のように自然が好きで触れる機会が多かったためか、環境問題関連のニュースが流れると気になって目で追っていました。

国家公務員、環境省の志望動機

昔から漠然と「人のためになる仕事をしたい」と考えていました。姪の誕生によって自分の次の世代が生まれていることを実感し、「後世に残す仕事がしたい」と強く思うようになり、それにはやはり国家公務員が一番だと考えました。環境省の志望動機は、自分が大好きな自然を守り後世に残すために最前線で働きたいと考えたからです。理系であったため科学的な視点からも環境問題に携われると思いましたが、様々なステークホルダーが関わる大きな問題なため、旗振り役として働くのは環境省であると気づき、環境省を選択しました。

説明会の参加回数：4～5回

説明会やインターンで印象的だったこと

2017年3月の事務次官講演で、次官が「発展を止める妥協はいけませんが先に進むための妥協は良い」といった旨の発言をされていたことが忘れられません。恥ずかしながら未だ理解できていませんが、入省後の職業人生の中で答えが見つけられたらと思っています。



環境省で働く上で楽しみなこと

官庁訪問でお会いした自分の理想の先輩たちと共に働くことのできる喜びと、自分はどのような職員になっているか、将来への期待があります。

(北海道の国道の中で一番高い峠、三国峠からの眺め。)

S.O の官庁訪問

第1クールのスケジュール

1日目：環境省、2日目：なし、3日目：なし

実は官庁訪問は2度目で、去年は他省庁も回りましたが、その経験からも環境省に入りたいという思いが強かったため1本に絞りました。

環境省に入省しようと決めた

理由とタイミング

初めから環境省1本でしたが、官庁訪問で様々な職員さんとお話する中で「ここでこの人たちと働きたい！」という思いは高まりました。

官庁訪問に持っていった物

メモ帳・ゼリー飲料・どら焼き

庁舎内にコンビニはありますが、官庁訪問の学生によるかはわかりませんがゼリー飲料が売り切れていたことが何度かありました。自分の食べたいものを鞆に忍ばせておくといつも通りの自分に帰ることができ良いと思います。

官庁訪問前の準備

昨年の官庁訪問の際に残したメモを振り返り、当時の志望動機の反省や面接で聞かれた内容を反芻しました。また、コミュニケーション能力を伸ばそうと某コーヒーチェーン店でアルバイトをしました。おかげで初対面の人とも積極的に関わられるように成長したと思います。

自分のどのような部分が評価

されたと思うか

人の話を聞く姿勢だと思います。「話し上手は聞き上手」と言いますが、自分の意見をぶつけるだけでなく、お忙しい中時間を面接のために時間を割いてくださった職員さんのお話を謙虚に聞く姿勢は大切です。アルバイトで培ったコミュニケーション能力は少なからず貢献してくれたと感じました。当たり前のことですが、そういったことをきちんとした上で自分の考えをぶつけるのが基礎だと思います。

控室での過ごし方

面接から戻った直後はメモを残すことに集中し、それが終わったら周りの学生と談笑してリラックスするよう努めました。つい緊張して黙って面接カードや資料を読みがちになる雰囲気はありますが、リラックスして楽しそうにしているからこそ面接で本領発揮できると思います。

休みの日の過ごし方

たっぷり寝たのはもちろん、面接の振り返りをしました。志望動機や環境省へのイメージの変化については特によく考え、次のクールで伝えられるよう準備しました。

振り返っての反省点

評価された点の裏側になってしまいますが、もう少し自分らしい意見を、理系出身ならではのことを言えたのではと感じます。他の内定者の話を聞くとヒートアップした議論をした人がいましたが、自分は和やかな雰囲気面接していたことが多かったと思います。もっと素直に積極的に意見をぶつけてみて面接を楽しむことができたなら、官庁訪問がもっと価値あるものになったかもしれません。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

長丁場で体力的に非常にキツイ期間であることは間違いありません。そんな中でもひとつひとつの面接を大切に、自分とお話をしてくださる職員さんに全力でぶつかってください。1対1で行政官が自分と長時間、しかも何人ともお会いできる機会はとても貴重な時間です。言えなかった、聞けなかったことを残すことなく自分の全てを出し切れれば結果は付いてくると思います。

2度目の官庁訪問考えている方へ

私は去年も環境省を訪問し残念ながら内定を頂けず、今年リベンジを果たしました。2回目ということで周りよりも官庁訪問に関する情報はある反面、厳しい目で見られるのではないかと不安もあると思います。もちろん去年からの成長を見られるとは思いますが、そこを心配するのではなく、なぜ2度目の官庁訪問を決めたのか、その思いをきちんと伝えることで結果的に自分の志望動機の強さやこれまで考えてきたことが表れると考えています。ベタなことですが、人生は一度きりです。諦めきれなかったら是非チャレンジしていただきたいです。



同じ志を持った人が集うプロジェクトチーム



K.Kのプロフィール



基礎データ

出身地：群馬県前橋市

大学：慶応義塾大学法学部 政治学科

サークル・ゼミ：行政学ゼミ、ジャズダンスサークル

趣味：駅伝観戦、ひたすらラーメンを食べること

もっと詳しく

好きな映画：『レ・ミゼラブル』（運命に逆らいながら必死に生きていく人々の姿に胸を撃たれます。サウンドも耳に残る物ばかりで好きです。）

印象的だった旅行先：オーストラリア（中学3年の時にホームステイをしました。何もわからない状態でオーストラリアに飛び込んだ私を優しく迎えてくれたオーストラリアの方々のことを今でもよく覚えています。）

尊敬する人：大学のダンスサークルの先生（誰1人見捨てることなく、メンバー1人1人に向き合ってくれる先生をいつも尊敬していました。）

好きな言葉

「まずは自分が変わって、そして周りを巻き込んでいけ！」
これは私の高校の先生がよく仰っていた言葉です。私の高校では「受験は団体戦」と言われ、一人の取り組みが変わることで周囲の人々の取り組みも変わっていくことが期待されました。受験に限らず、自分が良い取り組みを始めて周りの人にも波及させていきたいと私は考えています。

将来の夢

将来世代が豊かに暮らせる環境を残すこと

大学時代を振り返って

大学時代は、ダンスサークルの活動を中心とした生活をしていました。たくさん練習をしてダンスが上達したことはもちろん、たくさんの仲間に出会えたことや、副幹事長としてサークルをまとめたことなど、さまざまな経験をすることができました。

環境問題に関心を持ったきっかけ

高校時代、自転車で下校途中に熱中症になりかけたことです。自転車に乗って下校するという単なる日常行為が猛暑で危ぶまれてしまうという点が印象的で、温暖化に危機感を覚えるようになりました。

国家公務員、環境省の志望動機

「自己のあずかり知らない事由によって不利益を被ることがない社会」を実現したいと思い、国家公務員を志望しました。中でも、環境問題は時代を越えて蓄積されていくので、我々の活動による環境への負荷によって、罪のない将来世代の暮らしが危ぶまれる可能性があります。環境省であれば、そうした現代から未来への「外部不経済」に対処できると考え、環境省を志望しました。

説明会の参加回数：約 20 回

(2018 年 2 月以降、環境省の説明会にはほとんど全て参加しました。)

説明会やインターンで印象的だったこと

政策ワークショップでは、グループ内で政策についていろいろと意見を出し合い、活発な議論ができて良い勉強になりました。



(大学 3 年時、大学の学園祭で踊っている様子です。)

環境省で働く上で楽しみなこと

自分が環境省でやりたいと考えていることが本当に実現できるのかというワクワク感があります。また、強い志を持った優秀な方々と一緒に働けるという点も楽しみです。

K.K の官庁訪問

第1クールのスケジュール

1日目：環境省、2日目：厚生労働省、3日目：なし
単純に志望度順にまわりました。万が一のことがあつたら、3日目は内閣府に行く予定でした。

環境省に入省しようと決めた理由とタイミング

第2クール2日目の厚生労働省での全ての面接を終えた時に、環境省に決めました。環境省も厚労省も、素敵な職員の方々と自分のやりたいことができると思いましたが、「自分がやらなければ！」という使命感をより強く持てたのは環境省だったからです。

官庁訪問に持っていった物

栄養不足にならないように、栄養ドリンクを持って行きました。

官庁訪問前の準備

とにかく志望動機を磨きました。先輩や友人などたくさんの人に志望動機を見てもらい、意見やアドバイスをもらいました。その結果、官庁訪問では自信を持って志望動機を言うことができました。また、友人と模擬面接や政策についての議論をして、官庁訪問に備えていました。

自分のどのような部分が評価されたと思うか

職員の方々の話をしっかり聞いた点だと思います。職員の方々の話に共感できるかは人それぞれ異なりますが、まずはしっかり話を聞いて、そこを議論の出発点とすることは大事だと思います。

控室での過ごし方

面接で聞いた話や自分の感想をまとめていました。それ以外は、他の志望者の人と談笑していました。

休みの日の過ごし方

第1クールに聞いた話や自分の考えを文字化して、第2クールに備えていました。また、他の国家公務員志望の友人と集まり、情報交換もしました。

振り返っての反省点

第1クール初日は少し消極的になって自分の考えや質問をあまり言えませんでした。せっかく職員の方々も活発な議論を歓迎してくださっていたので、もっと自分の言いたいことを積極的に言えばよかったと思います。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

とにかく最後まであきらめないことと、自分の素直な思いを大切にすることを意識してもらいたいと思います。結果は後からついてくると信じましょう。頑張ってください！

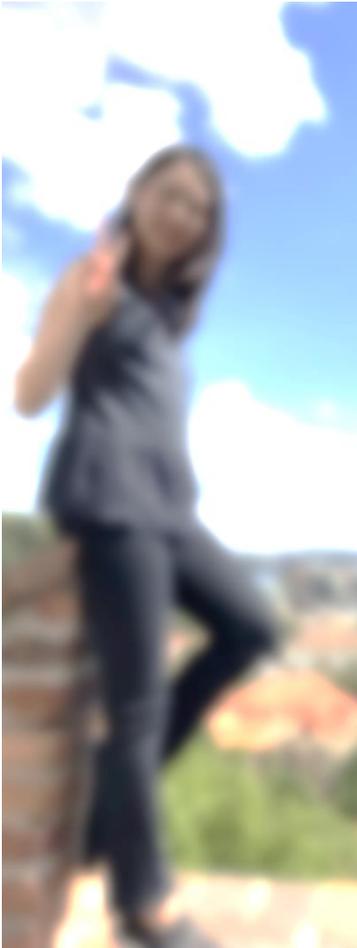


私にとっての環境省は...

やりたいことを「仕事」として取り組める場所



M.K のプロフィール



基礎データ

出身地：神奈川県逗子市

大学：東京大学教養学部 教養学科 総合社会科学分科 相関社会科学コース

サークル・ゼミ：法と社会と人権ゼミ、グローバルリーダー育成プログラム

趣味：読書、ピラティス、美術館巡り

もっと詳しく

最近読んで面白かった本：米原万里『旅行者の朝食』（ロシアの食べ物についての蘊蓄エッセイ。官庁訪問中に同じ机の方もこの本をご存知で盛り上がりました。）

印象的だった旅行先：NZ 南島とパラオ（都市派なのですが自然の美しさに胸を打たれました！）

尊敬する人：マリー・キュリー（苦勞して開発したラジウム精製法の特許を取得せず、夫亡き後も研究に打ち込み科学技術の発展に貢献した姿には憧れます。）

大学時代を振り返って

入学時には海外経験がほぼなかったのですが、周囲に刺激を受け、大学 1 年生の冬以降、積極的に勉強・旅行・ボランティア等で海外によく行くようになりました。勉強については環境問題の解決に関心があったので始めは環境経済学を、後には環境社会学や環境倫理、科学技術論を学びました。大学 1 年の秋に部活動を辞めるなど、すべてを頑張れたわけではありません。しかしその場その場のチャンスを生かし、自分なりのベストを尽くしたと言える大学生活だったと思います。

座右の銘

「切磋琢磨」

周囲や理想の自分と競い合いながら、より良い自分を目指し続けたいです。小学校 4 年生の時に担任の先生が教えて下さった言葉です。

将来の夢

地球と人類に希望を持てるような環境を残すこと。

環境問題に関心を持ったきっかけ

福島第一原発事故が起こり、日々使う電気がどこでどのように作られているのか何も考えていなかった自分にショックを受けました。マリー・キュリーという放射線の研究に励んだ科学者に憧れ、それまでは人の役に立つ科学技術研究に携わりたいと漠然と考えていました。しかし事故以降、科学技術と社会の関係にもっと目を向けるべきだと考え、地球の持続可能性を脅かす深刻な環境問題の数々を何とかしたいと強く思うようになりました。

国家公務員、環境省の志望動機

教養区分の試験を受けた段階から環境省のみを志望していました。持続可能な社会の構築は人類最大の課題であり、その構築に使命感を持って携わりたいと考えていた自分にとって国際機関や NGO も 1 つの選択肢ではありました。しかし国民国家体制は依然として国際社会の下地であり、また環境問題への対処は国・地域の文脈を踏まえなければ不可能です。そのため環境省において日本国内の対策を練り、また世界全体の対策とつなげていく仕事が自分にとって最良だと確信するに至りました。

説明会の参加回数:15 回程度

説明会やインターンで印象的だったこと

女性の職員の方のお話は、自らのキャリアパスを想像する上で参考になりました。また JOB トークは職員の方々がご自身の携わるお仕事を詳しくお話して下さり、環境省の業務の幅広さを実感することができました。



環境省で働く上で楽しみなこと

政策立案に必要なスキルを身に付けつつ政策ネタを拾い集め、数年後には制度設計を引っ張っていける存在になればと思います。魅力的な同期と厳しくも充実した職場環境を共有し、もっと仲良くなるのも楽しみです。

(サステナビリティをテーマとする学部横断型のゼミでパラオを訪れました。)

M.K の官庁訪問

第1クールのスケジュール

1日目：環境省、2日目：経済産業省、3日目：なし
2日目に経済産業省を選んだのは、環境政策に企業の協力は欠かせず、また経済産業省にも環境政策に関わる部署があったからです。

環境省に入省しようと決めた理由とタイミング

環境省の「少数精鋭」の風土、第1クール初日の初めにお会いした職員さんが企業の方と膝を突き合わせて対策を練っていた姿、環境問題を「発見」し社会に対策を呼び掛けられる省庁は環境省でしかないことから、第1クールを終えた段階で環境省しかないと思いました。

官庁訪問に持っていった物

麦茶とコップを用意して下さっていましたが、夜遅くになると補充されなくなるかもしれないと思い自分の水筒も持っていきました。また2食連続でコンビニのご飯だとテンションが下がってしまうタイプなので、昼ごはんにはおにぎりを持参しました。メモ帳とペンは必須です。白書は持っていかずとも最新版が共有スペースに置いてありました。

官庁訪問前の準備

他の志望者と環境白書を区切りながら読み進め、気になったポイントをディスカッションしました。また訪問者カードを見せ合い、互いの関心や考え方を深掘りしていきました。説明会への参加も、環境省が力を入れて取り組んでいる課題について知ることができ、良い準備になりました。(人それぞれですが、私の場合、大学の無料カウンセリングサービスも自己理解と自信の獲得に役立ちました。)

自分のどのような部分が評価されたと思うか

熱心さを評価していただけたのではないかと思います。中高の頃から一貫して環境問題に関心を持ち行動しようとしてきたこと、持続可能な社会の実現に向けて並々ならぬ熱意をもっていることをうまくアピールできたというのが自己分析です。

休みの日の過ごし方

第1クールと第2クールの中の休日は、友達と映画を観たり、他の志望者とご飯を食べながら第1クールのことを話したりしました。第3クールと第4クールの間の休日は、第5クール直後に海外留学を控えていたため、期末課題に追われていました。

控室での過ごし方

同じテーブルの方とおしゃべりしたり、伺ったお話を振り返りノートにまとめたりしていました。髪を長時間結んでおくことに慣れていなかったため、第1クールでは面接から帰るたびにお手洗いに行き、ほどいてリラックスしていました（笑）

振り返っての反省点

説明会に積極的に参加し日経新聞にも割と目を通していたため、環境関連のニュースは追えていると思いきや、実際にはマイクロプラスチックに関する情報をアップデートできておらず、お忙しい中お時間をとって下さった担当の職員さんに自分の意見をなかなかぶつけられず、歯がゆい思いをしました。職員の方から学ぶことにももちろん意義はあります。しかし謙虚にニュースを再チェックし、もっとお話しできたらよかったなと思います。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問はこれまでのあなたの集大成をアピールする舞台です。その舞台に向けて友人や先輩、社会人の方の助けを得ながら自分をより理解する取り組みは、私にとっては何だか「青春感」があり楽しいものでした。環境省を目指す方もそうでない方も、楽しみながら頑張ってください！！



これから自分が輝ける場



Y.K のプロフィール



基礎データ

出身地：愛知県名古屋市

大学：東京大学文学部 行動文化学科 社会学専修課程

サークル・ゼミ：運動会総務部・ホッケー部

特技、趣味：スポーツ観戦、審判（バスケットボール・ホッケー共に資格を持っています。）

もっと詳しく

好きな映画：『ハウルの動く城』

最近読んで面白かった本：ルトガー・ブレグマン『隷属なき道』（ベーシックインカムについて書かれてある本。）

尊敬する人：高校の時の部活の顧問（人間的な面のご指導をたくさんしていただきました。）

好きな言葉

「いつも笑顔で」

特に座右の銘を決めているわけではないのですが、「いつも笑顔で」という言葉は個人的には好きです。笑顔でいることでほかの人にも悪い印象を与えないと思いますし、自分自身にとっても笑顔でいることで、つらい状況であってもポジティブに行動することができるようになっているのではないかなと思っています。

将来の夢

少しでも社会の役に立つことのできる仕事に携わりたいです。

大学時代を振り返って

大学では環境とは全く関係なく、スポーツ中心に活動してきました。運動会総務部で一般学生に対してスポーツイベントを企画・実施し、多くの人々と関わり合いながら 1 つのことで作り上げていく楽しさを知ることができたと思います。最近（執筆当時）地域と部活動の関わりをどうしていくのかということについて関心があり、様々な活動をしています。これからどのように進展していくのか今から少しわくわくしているところです！

環境問題に関心を持ったきっかけ

環境問題に関心を持った理由は、小学生のころに行われていた愛・地球博によるところが大きいです。地元で開催されていたということでかなり頻繁に家族に連れられて行っていたのですが、愛・地球博の中心的テーマが環境問題であったこともあり環境系のパビリオンを見ているうちに、知らず知らずのうちに環境問題に対して興味・関心を持つようになっていったのかなと思っています。

国家公務員、環境省の志望動機

国家公務員を志望した理由としては、やはり人の役に立つという自分の信念に沿って働くことができるのは民間ではなく公務員なのではないかと感じ国家公務員を志望するようになりました。

そのなかで環境省を選択した理由としては業務内容もありますが、それ以上に官庁訪問で出会った職員の方の熱さによるところが大きいです。官庁訪問で他の省庁も回りましたが、環境省の職員の方は自らの仕事を本当に楽しそうに熱心に語る方が多く、またお話の中で職員の方のやさしさがにじみ出ていることを感じました。官庁訪問を通して環境省の方と一緒に働いてみたいという気持ちが強くなったのかなと思っています。

説明会の参加回数：5回程度

説明会やインターンで印象的だったこと

説明会に参加するなかで、環境省の業務の広さ・魅力感じました。説明会に参加する前には環境省は規制ばかり行っているというイメージがありましたが、実際にお話を聞いていると温室効果ガスの抑制のために再生可能エネルギーの普及など様々なことをチャレンジしようとしているのだなということを感じました。



環境省で働く上で楽しみなこと

温室効果ガスを 80 パーセント削減するというビジョンを日本は掲げていますが、今現在の私にとってその未来はなかなか想像することができないものです。そのような目標を達成するために、創意工夫して未来の自分が現在の自分に「どうだ、やってやったぞ!」と言っている未来を想像するとわくわくしてきます。(笑)

Y.K の官庁訪問

第1 クールのスケジュール

1日目：農林水産省、2日目：環境省、3日目：なし

1日目に農林水産省を選んだ理由としては、農林水産省は環境問題も所管しているなど業務範囲が広くその点が当時は魅力的に感じていたためです。ただ、1日目と2日目をどちらの順番で回ろうかは最後まで悩んだ事項で、官庁訪問中にどちらで自分が仕事をしたいのかを決めようと考えていました。

環境省に入省しようと決めた理由とタイミング

第2 クールの1日目農林水産省の官庁訪問が終わったタイミングで環境省に入省したいと決断しました。第1クール・2クールのなかで、農林水産省と環境省を比較検討した結果環境省の方が自分の中であっていると感じたためです。

官庁訪問に持っていった物

メモ用紙・筆記用具・小説（読む暇あるかなと思い持っていました。）

官庁訪問前の準備

特にこれといって特別な準備はしていません。志望者カードの内容をブラッシュアップなど一般的な面接のための準備をしていました。また、体力的に厳しいことは事前に聞いていたので、体調管理には気を付けていました。

自分のどのような部分が評価されたと思うか

どこが評価されたのかといわれるとなかなか自分の中でも分かりかねる部分もありますが、面接の際には真摯にお話を聞いて、会話を楽しむという普段の様子を心掛けたことはよかったのかなと思います。また、学生時代に他人に自信をもって話すことができる活動をしたことで、面接で自信をもつことはできたのかなとも少し感じます。

休みの日の過ごし方

のんびり家で過ごしていたと思います。

控室での過ごし方

志望動機などの面接のための考えを整理したり、面接に帰ってきた後は面接内容をまとめたりしていました。

振り返っての反省点

体力的にかなり厳しかったですが、3日目もどこかの省庁に回っておくべきだったかなと少し後悔しています。なかなか中央省庁の職員の方と1対1で話す機会もなく貴重な機会であると思いますし、3日目に行くことでより比較対象が増えてよい選択材料を得ることができたのかなと思います。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問はやはり精神的にも体力的にも大変タフなものとなると思います。ただ官庁訪問のためにしっかりと準備して挑んでもらえれば良い結果が自然とついてくるのかなと思います。みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

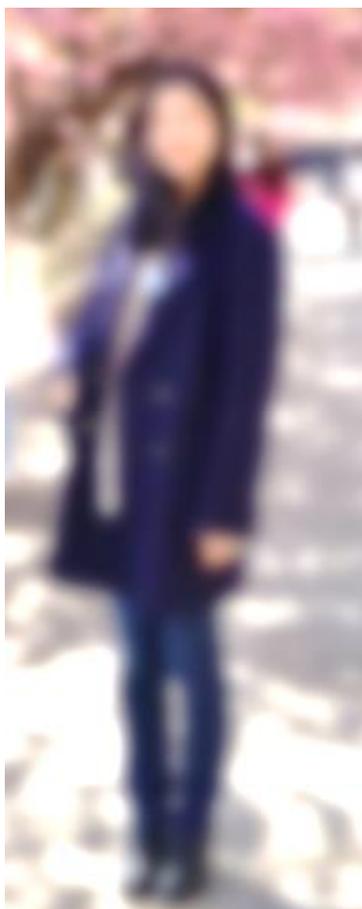


私にとっての環境省は...

これまではあこがれ、これからは力になりたい組織



A.Kのプロフィール



基礎データ

出身地：兵庫県神戸市

大学院：関西学院大学大学院 法学研究科

サークル・ゼミ：映画研究部、ベーグルサークル・行政法ゼミ

特技、趣味：銭湯・ベーグル屋巡り、映画鑑賞、ランニング

もっと詳しく

好きな映画：『きつと、うまくいく』（主人公ランチョーの信念や人生観が素敵で、とにもかくにも元気の出るインド映画です。）

印象的だった旅行先：指宿の砂蒸し温泉！

尊敬する人：両親（50代でも国家資格を取得し新たに仕事の幅を広げる姿に。）

大学時代を振り返って

大学では半年間マレーシアの環境保全 NGO でインターンシップを行い、マングローブの植林企画を通して人と人の間に立って利害を調整していくことの難しさや企画を実施させることへのやりがいを実感しました。帰国後は大学を早期卒業し大学院に進学し、廃棄物処理法についての研究を始めました。

ある意味かなり身勝手に過ごし、たくさん失敗もしましたがすべての経験が自分の財産となっているのではないかと思います。

好きな言葉

「明日死ぬかのように生き、永遠に生きるかのように学べ。」

ガンジーの言葉ですが、いつも周りに感謝し、ひたむきに学び続けようと思わされます。

将来の夢

生きとし生けるものがいきいきと活動できるような住環境を守っていきたいです。

環境問題に関心を持ったきっかけ

高校の時に水俣研修で被害者の方の生の声を聞き、自由な経済・社会活動には良好な生活環境が基盤となっているのではないかと感じたことをきっかけに環境問題に興味をもちました。その後、環境保全 NGO でのフィールドワークを経験し、また環境法を学んでいくなかでますます環境問題に取り組むことへの面白みややりがいを感じました。

国家公務員、環境省の志望動機

将来は法律を使って環境問題に取り組む仕事がしたいと思っていました。そのなかで、司法的な事後解決よりも行政として事前予防していくことに意義があると思ったこと、また環境そのものを第一に考え直接的に取り組むことのできる組織で働きたいと思ったことが環境省の志望動機です。

説明会の参加回数：スマートライアル（環境影響評価の作成）1回、説明会7回（京都5回、本省2回）

説明会やインターンで印象的だったこと

スマートライアルは職員の方や理系の学生と意見を交換していくなかで、文系理系の壁を越えた幅広い視点から様々な指摘がされることが文系キャンパスで過ごす自分にとって新鮮で面白かったです。また説明会の中でも特に座談会形式や少人数説明会では質問がしやすく、職員の方のリアルなお話を聞かせていただけたことがためになりよかったです。関西での説明会もしばしばあり、環境省の採用ページや採用 FB を頻繁にチェックしていました。



環境省で働く上で楽しみなこと

自治体や民間企業、他省庁などさまざまな立場の方と仕事をさせて頂くこと。

（マレーシアでインターン先の上司と登山した時。）

A.K の官庁訪問

第1 クールのスケジュール

1日目：環境省、2日目：農水省、3日目：総務省

環境と関わりの深い第一次産業や、政策実施主体である現場からの視点からの話も聞いてみたいと思ったため農水省と総務省も訪問しました。

環境省に入省しようと決めた理由とタイミング

環境省の説明会に何度か参加し、環境行政の可能性に魅力を感じました。そこから国家総合職試験の勉強を始めたので、試験に合格した時にはすでに環境省に入省したいと思っていました。

官庁訪問に持っていった物

訪問者カード（初回のみ）、ノート、筆記用具、説明会でもらった資料や「内定者の声」、飲み物。

官庁訪問前の準備

京僚会（関西出身の同窓会的な組織）を通じて他大学の同じく国家総合職を目指す方々と情報共有したり、大学のキャリアセンターに行き志望理由や自己PRなどを整理したりしていました。政策の知識はあまり必要ではないと聞いていましたが、やりたい業務内容や問題意識を整理するために白書にさっと目を通しました。

地方出身ですので官庁訪問期間中に連泊できる宿を探して最終合格発表前に予約しました。

自分のどのような部分が評価されたと思うか

環境に対する熱い想いをこれまでの経験を踏まえて自分なりに伝えられたことではないかと思います。

休みの日の過ごし方

ほとんど寝ていました…。あとは官庁訪問の振り返りや、スーツの洗濯、東京の友達とご飯に行きました。3連休は地元に一時帰宅しました。

控室での過ごし方

同じテーブルの方々とお話をしたり、原課面接で聞かせていただいたお話をノートにまとめたりしていました。

振り返っての反省点

何ととっても体調管理です。期間中は緊張と夏バテで体重が激減したので、毎日意識をしてハイカロリーな食事をすればよかったと思います。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問ではたくさんの職員の方から大変貴重なお話を聞かせていただくことができます。期間中は体調にお気を付けて、この機会を楽しみながら頑張ってください。





K.Kのプロフィール



基礎データ

出身地：兵庫県神戸市

大学：東京大学法学部 第2類（公法コース）

サークル：競馬サークル

ゼミ：行政法演習

特技：ドラム（高校3年間は友達とバンドを組んでいました。）

趣味：競馬、砂金堀り

もっと詳しく

最近読んで面白かった本：鈴木光司『リング』（あまり本は読まない性質ですが、登場人物の心情や、謎を解いていく過程を追体験させる手法が素晴らしかったです。）

印象的だった旅行先：①北海道知床（野生の熊が鮭を捕食するシーンを生で見られたので心に残っています。）

②長野県霧ヶ峰（コースを登り切った後に山頂から見える景色は素晴らしかったです。）

大学時代を振り返って

まじめな大学生ではなかったです。普段は授業に出ずサークルの面々と飲みに行ったり麻雀を打ったりしていました。旅行やドライブに行くことも多かったです。定期試験1か月前になって初めて勉強しだし、間に合ったり間に合わなかったりということを繰り返していました。

好きな言葉

「やらずに後悔するよりやって後悔するほうが良い」
座右の銘が特にあるわけではありませんが、自分が迷った時、思い切って行動したい時の行動指針がこの言葉だと思っています。どちらにしろ後悔は避けられないのですが…。

将来の夢

①国際問題から地域の課題まで、様々な場面で当事者の意見をまとめ、なるべく多くの方の合意がとれる解決策を作る行政官になりたいです。

②環境という視点のみにとらわれることなく、産業や日常生活の課題を同時に解決できるような画期的な制度・法律を作りたいです。

③これまで両親には様々な場面で迷惑をかけましたし、また自分のやりたいようにやらせてもらってきました。自分にも子供ができたなら、同じく子供がやりたいことを自由にやらせてやれるような心の広さと経済的余裕を持った親になりたいです。

環境問題に関心を持ったきっかけ

特にこれといって挙げられる原体験はありません。強いて言えば豪雨災害や酷暑、熱帯伝染病の北上などのニュース・情報から、地球環境が今の人類に脅威となる場面が増えつつあると感じたくらいです。自分自身、中学・高校時には地学を主に勉強していて、地球のメカニズムについて興味・知見を持っていたことも加えて言及できるかもしれません。

国家公務員、環境省の志望動機

国家公務員：親が公務員だったことは大きいです。また、自分の仕事の成果がある特定の企業の利益になるのではなく広く社会・国民の皆様還元されていく点、自分がやりたいと思ったことについて企業の利益を理由に否定されるのではなく社会への必要性や重要性などで判断してもらえる点、そして企画を実現するために法律や制度など強制力があって後世に残るツールを作ったり使ったりできる点が魅力的でした。

環境省：環境美化などの人々にとって身近な部分から、地球温暖化対策などの個人を超えた社会的課題にまで携われ、なおかつそのすべてが人々の生活に直結し、自分の仕事によって人々の暮らしをより良いものに変えていけるという点が良いと思いました。説明会などで職員の方々とお話するたびに、多くの方が使命感や責任感を持って仕事にあたられているという点についても魅力的でした。「環境省には国家公務員として働くすべてがあるのではないか」と誇張なく考えていました。

説明会の参加回数：～5回

説明会やインターンで印象的だったこと

少人数説明会（職員2人に対し私1人）で、90分にわたって様々な質問に答えてくださったことです。その際に、環境省の「人の魅力」に触れることができたと思っています。



（東京競馬場で競走馬の像に乗る私）

環境省で働く上で楽しみなこと

様々な業界・立場の人と会い、話を聞く（ヒアリング?）ということを楽しみにしています。環境を守るために人々の行動を制限するというばかり考えているのは、社会の実態にそぐわない制度しか生まれません。実際に動く制度を作るためにも、さらに自分の好奇心を満たすためにおいても、様々な企業・地域の人々の話を聞き、話し手の生活・人生を部分的でも追体験することは有意義だと思いますし、またそういう体験を国家公務員という立場を使って(?)していければいいなと思っています。

K.K.の官庁訪問

第1クルールのスケジュール

1日目：総務省自治、2日目：農林水産省、3日目：環境省

総務省自治に関しては、人々の生活をよりよくしたいという思いから、行政サービスを行う地方自治体を所管する省庁に行きたいと長らく思っていました。農林水産省に関しては生活の基盤は食にあると考えたからです。また地域振興にも興味があり、多くの地域において第1次産業が基幹産業となっていることから志望していました。環境省の志望動機は上述の通りです。農水省より志望度が低かったということはありません。志望カードの分量が他省庁に比べて少なかったからというのもあります。（すいませんっ…。）

環境省に入省しようと決めた理由とタイミング

最終的に自分が選べる立場に立つことはなく、第2クルール2日目の時点で可能性があるのは環境省だけでした。しかし、このような消極的理由だけではなく、官庁訪問中の原課面接で最も楽しかったのは環境省であったこと、自分の人となりや思考方法を真正面からぶつけながらディスカッションを行うことができたこと、面接の手応えがありまた自分をきちんと評価しようとしてくれているんだということが伝わってきたということなどが、環境省に入ろうと思った理由です。

官庁訪問前の準備

各省庁の施策について説明会の資料を読み込みました。特に自治については有志と自主ゼミを組んで勉強会を行っていました。

自分のどのような部分が評価されたと思うか

原課面接で職員の方々の説明を聞いたときに、現行制度について、その意図を理解しつつ問題点について自分の考えをわかりやすく伝えることができた点だと思います。正直に言って私の志望動機は弱すぎるので、それを補って良い評価をされたのは、まさに面接中の頭の回転の速さや問題意識の鋭さだと思います。（自分で言うとおいて恥ずかしいですが。）

官庁訪問に持っていった物

待ち時間が長い省庁に行く際は新聞を持っていきました。そのほかにも、これまでの説明会資料を持参して読みながら過ごすようにしていました。もっとも、環境省は3日目訪問ということもありあまり待ち時間がなかったですが。

休みの日の過ごし方

とにかく寝て、官庁訪問の疲れを癒すことに集中しました。起きているときは自分の志望動機を詰めたり、テレビを見て気分転換したりと過ごしたいように過ごしていたと思います。

控室での過ごし方

用意されていた麦茶やお菓子を食べながら、それまでの面接で話したことや印象に残ったことをメモしていました。面接中はメモを取らず終わってからまとめることで、面接官の目を見ながら話に集中でき、また本当に覚えておくべきことだけが整理されるのでメモが冗長にならずに済むと思います。

振り返っての反省点

面接によっては90分を超える長丁場のものもあり、ところどころ集中力が切れる瞬間があった点は反省すべきだと思っています。集中力が切れると受け答えも雑になってしまいがちなので気を付けたほうが良いと思います。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

官庁訪問も民間のサクルーター面談と基本的に同じなので、民間就活の経験は絶対に役立ちますし、また必要以上に気負う必要もありません。必要以上に施策の勉強をしたり、質問内容を用意したりすることは逆効果になると思います。大事なのは、省庁のミッションを事前に勉強し、省庁の考え方と自分が合うかどうか、合ったとして省庁の職員としてミッションに沿った具体的な解決策や問題意識が持てるかどうか、そしてこれらを職員の方々の話を聞きながら考えることができるかだと思います。うまくかみ合って話ができるとき、面接は苦痛ではなく楽しいものになります。官庁訪問が皆様にとって実り多いものになるよう願ってやみません。



自分の想いを実現する一つのステージ



M.F.のプロフィール



大学時代を振り返って

勉強：学部の際は国際系の学部だったので、国際法のゼミに所属し、模擬裁判大会やディベート大会に参加していました。院では、国際法に加え、環境・エネルギー系の学習を中心にしています。課外(自主)活動：3回生の時に、日本の未来の在り方と平和を考えるというテーマの下で活動する自主ゼミを他学部生と立ち上げ、団体の目的を達成するために、奨学金を使って国内外フィールドワークや意見交換会を実施しました。また、院では英語議会やインゼミ合宿実行委員会に所属し、台湾の学生とディスカッションをしたり、政策立案に対する理解を深めるイベントを企画・実行したりと、色々取り組んでいます。

基礎データ

出身地：岐阜県岐阜市

大学：京都大学公共政策大学院 公共政策教育部 公共政策学専攻

サークル・ゼミ：合唱団・国際法ゼミ

特技、趣味：ピアノ、合唱(1次試験の1か月前にアンサンブルコンテスト全国大会に出るという綱渡りをしていました…それほど熱心にやっています!)

もっと詳しく

・もっと詳しく

好きな映画：『レ・ミゼラブル』(役者さんの歌唱力の高さも相俟って、終始感情が揺さぶられます…!)

印象的だった旅行先：ヴェネツィア(伊)、黒部ダム(富山)

尊敬する人：両親

好きな言葉

「海の如く在る」

格言などではありませんが、自分がいつも心に思っていることです。「海のように広く、人々を包み込むような心をもつ人間になるように」との両親の願いが込められている名前に恥じない生き方をしたいと思っています。また、全ての生命の源である海のように、大切な人や地球の未来を守る礎になりたいという思いも込めています。

将来の夢

死ぬ時まで、公私問わず自分が大切にしたいと思うものを守ることができる人間になっていることです。

環境問題に関心を持ったきっかけ

幼い頃から、毎年家族で白馬や八ヶ岳など自然の美しいところに旅行していたことがそもそものきっかけだと思います。

国家公務員、環境省の志望動機

①国家公務員

大学で、元外務省の方の授業を受けたことをきっかけに、私自身がこれまで育ってきた日本を根の部分で支える仕事がしたいと思い、志望するに至りました。

②環境省

地球温暖化を防止し、幼い頃から身近に感じていた「豊かな自然」を将来世代に引き継ぐために、地球環境の適切な保全と経済発展とが調和する社会を実現したいという思いから、訪問を決めました。

説明会の参加回数：6回

説明会やインターンで印象的だったこと

就活のこともあり、東京での説明会に足を運ぶ余裕はなかったため、京都で開催される説明会にはできる限り参加するようにしていました。また、修士1年の時に、2週間環境省でインターンさせていただきました。

環境省で働く上で楽しみなこと

同期をはじめとした個性豊かで熱い思いを持っている省員の皆さんから日々刺激を受けながら仕事をする事です。また、自治体や民間など様々なステークホルダーと関わっていく機会もあると思うので、それもまた楽しみの一つです。

(国際人道法の模擬裁判大会に出場した時の写真です。)

M.F.の官庁訪問

第1クールのスケジュール

1日目：環境省 2日目：農林水産省 3日目：財務省
訪問順は志望順です。

環境省以外の志望理由

・農林水産省

本音：①環境省を第1志望にしているため、訪問する省庁の軸を通しやすと考えたから。=国民の生存の基盤を守りたい(食・環境の2つのアプローチ)。

②原体験があるから。

建前：幼い頃から父の実家で毎年田畑に触れ、農業を身近に感じていましたが、高齢の祖母が一人で管理することはできなくなり、土地を手放したことから、地方の零細農家の限界を実感し、将来の世代にわたって、全ての人が日本の恵みを楽しみ、豊かな生活を送ることができる社会基盤づくりをしていきたいと考えようになったから。

・財務省本省

本音：①どの省庁で働くにしても、予算折衝で必ず関わることになるため、勉強になると考えたから。②国際系の業務の幅が広い。

建前：国の基盤を支える仕事がしたいという思いが根底にあり、その思いに合致するアプローチの仕方は、(自分が大事だと考えている)環境・食・財政の3つのうち、どれなのか官庁訪問を通して見極めたい。

環境省に入省しようと決めた

理由とタイミング

前年度に2週間インターンを経験させていただいたこともあり、もともと環境省の志望度が最も高かったのですが、最終的には第2クールの時点で、①雰囲気・人の魅力と、②自分の思いや生涯を通してやり遂げたいことが最もマッチする省庁が環境省であることを再確認し、環境省に決めました。

官庁訪問前の準備

都合がつく範囲で、訪問予定省庁(環境、農水、財務)の勉強会(京僚会開催)に参加していました。また、省庁に内定された院の先輩方に訪問カードを見てもらったり、模擬面接をしていただいたりしました。

自分のどのような部分が評価されたと思うか

どこが良かったのか…というのは自分では測り兼ねますが、省員の方を独り占めしてじっくり話を聞き、質問し放題(時間に限度はありますが)という貴重な機会を楽しむことができたことは、評価につながったのかなと思います。また、第1・第2クール共に3日間とも省庁を訪問し、積極的に見識を深めようとした姿勢もプラスに働いているかもしれません。また、遅い時間の出口面接でも元気ですね、と言われたのでそういった部分も評価されている可能性があるかと思います。

官庁訪問に持っていった物

聞いた話をざっとメモするための小さい手帳と、全省庁のすべての面接を見やすく整理するためのA4サイズのノート2冊を常備していました(整理用の付箋も)。また、環境省の関連ネタが含まれているような本や説明会等でもらった資料をまとめたファイルなどを持っていきました。ただ、かなり重くなる割には、見る時間がそれほど沢山あるわけではなかったりするので、最低限にしておくことをお勧めします…。また、昼食・夕食の時間は指定制で、必ずしもお腹が空くタイミングで食事をとることができるわけではないので、第1クールではスティックパンやクリームブランを持っていきました。環境省では、お菓子・お茶が常備されていたため、(個人的には)何も持っていなくても十分乗り切れると思います。

控室での過ごし方

人事面接で聞かれた内容・原課面接で聞いた話をノートに整理したり、説明会やインターンでもらった資料を見返したり、同じテーブルの訪問者の方と話したりして過ごしていました。

振り返っての反省点

常に頭を整理しておかなければと思い、原課から戻ってからは暫くノートづくりに集中してしまっていたので、思ったよりも周りの人との交流が少なかったことです。もっと積極的にいろんな人と話してみるのも良かったかなと少し後悔しています。また、第2クール以降集合が9時頃になりますが、9時前後は出勤される職員さんでエレベーターが非常に混雑しており、部屋に行くまでに想定していたよりも時間がかかってしまいました。なので、もっと早めに行くようにすればよかったと反省しています。

休みの日の過ごし方

第3クール2日目や土日は、公共の友人や他省庁の方、東京の知人と食事に行ったり、買い物に行ったり、図書館に行ったりして息抜きをしていました。今年は酷暑だったこともあり、短時間でも外出するとかなりの疲労感だったので、息抜きもほどほどにしておくのが良いかと思います。ただ、人と話す時間はある程度つくるようにしておくといいです。色んな人との会話は、気分転換になるのはもちろんですが、思いがけず官庁訪問で使える小ネタの宝庫だったりします。

感想、来年以降の志望者へのメッセージ

私は1次試験対策が間に合っておらず、1次突破の時点ではぎりぎりのラインにいました。2次試験対策をしている間に、民間就活に力を入れるのか、公務員試験に集中するのか、暫く葛藤がありました。最後にはやらずに後悔するくらいならやれること全部やった方がいいという思いが勝ち、公務員試験に比重を置くことにしました。私の場合は、記述が割と得意だったのでなんとか挽回できましたが、今思えば危ない綱渡りだったかもしれません。兎に角、ボーダーを越えてさえいればチャンスはあります。公務員になるまでの道のりは長いので、自分の得意・不得意、将来やりたいことの優先順位などを整理したうえで、最後に自分が何をを選ぶのか決めてもらえたら、と思います。

また、官庁訪問については、自分の感触や周りの官庁訪問者からの情報は、ほとんど主観的なものに過ぎないので、そういったものに振り回されて悲観的／楽観的にならずに、ありのままの自分を出し切ったうえで、省庁からの評価を受け止めることが大切だと思います。無理に取り繕ったり、気負い過ぎたりせず、ぜひ官庁訪問を楽しんでください。特に、原課面接では話を聞くだけでなく、省員の方と熱く議論することもあるので(こんな貴重な機会無駄にはできません!)、楽しみに頑張ってもらえたらと思います。



(参考) 官庁訪問の1日の流れについて

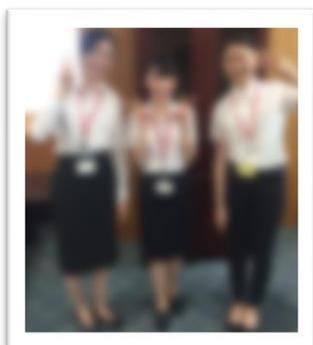
1日の例

	訪問先	内容	所要時間
①	入口面接 (人事)	志望動機と関心のある政策分野について	20分
②	環境再生・資源循環局	プラスチックによる海洋汚染の問題について	60分
昼食 (30分)			
③	秘書課面接 (人事)	志望動機や関心のある政策分野について詳しく	60分
④	環境再生・資源循環局	帰還困難区域を巡る政策や他省庁出向時代の経験について	90分
⑤	地球環境局	カーボンプライシング政策や他省庁出向時代の経験について	90分
夕食 (40分)			
⑥	地球環境局	水俣病を巡る政策や地球温暖化対策について	120分
⑦	出口面接 (人事)	1日の振り返りと評価について	10分

ここに挙げた1日の流れはあくまで参考例であり、お会いする職員の方の人数や内容、所要時間は人それぞれです。当日の訪問者数や災害対応にあたる局の有無によっても変わってくるでしょう（2018年度官庁訪問の場合、西日本で記録的な豪雨が発生し、環境省でも多くの職員の方がごみ問題の対応に尽力されていました）。

当日は待ち時間が結構あり、なかなか次の面接に呼ばれないと不安になるかもしれません。少なくともこのページの執筆者は心配性だったので、他の訪問者の状況が気になって仕方がありませんでした（笑）ですが上述の通り、面接のセッティングは個人次第、状況次第です。長い1日ですが、職員の方との貴重な時間を最後まで楽しんでください！

(参考) 官庁訪問中の服装について



ぜひ自分に合った涼しい服装を(^^)

環境省ではクールビズを推奨しています。内定者もご覧の通り半袖シャツやノーネクタイで官庁訪問に臨みました。

3. 内定者の「今だから言えること」



聞いてびっくり!?

内定者の「今だから言えること」(PART I～III)

こちらは、内定者が6つの質問に座談会形式で答えていくコーナーです。内定者の素顔、気になる本音が見えてくる、そんなトークになっておりますので、勉強の合間の息抜きにでも読んでもらえたらと思います！

※なお、こちらのコーナーでは全員ニックネーム表記となっております。以下、PART I を冷麺・みょうが、PART II をきよ・ナッツ・コロッケ、PART III をチャンプ・おが・すしがお送りします。

PART I ①訪問カードの作成ポイント ②官庁訪問を通して印象的だったこと等

PART II ③今不安なこと ④官庁訪問地方組あるある

PART III ⑤国家公務員／環境省職員として働くにあたって不安だったこと・その解消法

⑥選考において席次や訪問日、大学は関係ない説を検証

《PART I》

(何があっても再生可能！エネルギー溢れる名物コンビ)冷麺とみょうがのフリートーク！

Q1. 訪問カードの作成ポイント

みょうが：冷麺は訪問カードの写真、人事の方につっこまれてたね。

冷麺：そうそう(笑)面接官にも本当に同じ人なのかとつっこまれたこともあったんだよ。

みょうが：普通はコンタクトにして印象上げようとするのに、逆に眼鏡かけていくのが面白かったです(笑)

冷麺：最初は僕もコンタクトで行ったほうが、印象いいだろうと思ってたんだけど、官庁訪問ってかなり長い間行われるって話を聞いて、あんまり目に良くないかなと思ってやめちゃったんだよね～。

みょうが：それは同感。私は霞ヶ関駅のトイレでコンタクト外して帰ってた(笑)

冷麺：写真から眼鏡でいくべきだったよね。外見で判断されることもないだろうし。

みょうが：そうだね～。私は駅前のボックス写真で官庁訪問に臨んだけれど、写真館で撮ろうとボックスで撮ろうと何の影響もないとも人事の方は仰ってた！

冷麺：面接でもそうだけど、自分のありのままの姿を見せるってことは官庁訪問を通じて大切だなと感じたよね。

みょうが：うん、私もそのことはずっと感じていたなあ。訪問カードを作成するにあたって私は友達に見せてコメントをもらう作業を繰り返していたのだけど、自分の核となるものが何かを友達と探れたことはかなり官庁訪問のためになったと思う。冷麺はどうしていた？

冷麺：なるほど。僕は官庁訪問する人が周りにいなかったのもあって基本的に訪問カードは自分一人だけで作ってたな。

3. 内定者の「今だから言えること」

みょうが： そうなんだ。大学の先輩や就活相談室のようなところにも行ってない？

冷麺： そうそう、全く行ってない。環境省の説明会とかで感じたそのままを自分の言葉で伝えるために書いてた。あんまり正攻法じゃない気がするけど(笑)

みょうが： 多分環境省の場合、環境環境してる人とそうでない人でまた準備の仕方が違ってくるんじゃないかと思う。私は環境環境してる人だったから(笑)、なぜ環境を守りたいのかを掘り下げるとともに、自分の考えていることが現実離れしていないかを突き詰める必要があつて。その作業は本を読んだり人と話したりと、他者の力を借りた方が上手くいって。

冷麺： 僕の場合はみょうがと違って環境問題にぼんやりとした憧れしかなかったからなー。掘り下げるも何も詳しいことは全然把握できてなかったよ(笑)面接中もそうなんだそうなんだといつも勉強って感じだったよ。だからこそ志望動機よりも学生時代に頑張ったことについてはしっかりと伝えられるようには工夫してた。

みょうが： 訪問日によって周りの雰囲気も違いそうだね。私は第1クール1日目に環境省を回ったから、結構周りも環境環境していた気がする。採用は多様性も気にして行われているだろうから、ますます違いを見せねばと張り切っていたかも(笑)ぼちぼち、官庁訪問の話に移りましょうか。

冷麺： そうだね。

Q2. 官庁訪問全体を通して、印象的だったこと/面白かったこと/楽しかったこと

冷麺： 官庁訪問中、何か印象的だったことある？

みょうが： 第3クール初日に冷麺と再会したことでですかね。

冷麺： ああ、それはある！みょうがが残ってるじゃんって思ったもん(笑)

みょうが： 読者の皆さんに説明すると、冷麺に私は避けられていました(笑)

冷麺： さらに説明しますと、みょうがは官庁訪問前の説明会において僕に急にライバル宣言したり、僕の連絡先を友達つてに聞き出ししたりしてたんですよ。怖いですよー(笑)

みょうが： だって大学で勉強してること被ってそうで、キャラ被りを避けるべく、まずは冷麺のことを知りたかったし…(笑)

冷麺： 結局あんまり被ってなかったけどね(笑)そんなことはおいておいて、他に印象的だったことある？

みょうが： あ、冷麺のひどい話をする前に話を切り上げられた(笑)印象的だったのは何ととっても、お話を伺った職員の方々の熱意と知識と切れ味だなあ。遅くまで残った日も、「お時間頂戴できてありがたい」と最後まで思っていた。

冷麺： それはたしかにそう感じるな。その熱意を感じるごとに僕もいっそう環境省で働きたいと思ったもん。僕が印象的だったことは職員の方がフレンドリーだったことかな。第1クールのお昼から面接に呼ばれるときにはニックネームで呼ばれ始めたんだよ(笑)。そのときが一番印象的だったけど、それ以外の時にも親身にお話を聞いてくださる方ばかりだったし面接だって感じないくらい会話を楽しむこともできたし。

みょうが： 優しく親身に接して下さったのも、お話できて楽しかったのもすごく分かるなあ。第2クールの面接前、担当される方のデスクがどこか分からずうろついていると、第1クールでお会いした職員の方が覚えていて下さって、わざわざ連れて行って下さった時はじーんとした(笑)

冷麺：そんなことあったんだ！ってかそもそも迷ったんですね(笑)仕事選ぶとき一緒に働く人も大切にしたいしね。

みょうが：え、冷麺は1回も迷わなかったの？

冷麺：迷ったことはなかったかな(笑)

みょうが：なんと。特に3階の地球温暖化対策課は、部屋が広い分、廊下に貼ってあるデスク表をちゃんとチェックしてから入室しないとイケないことを私は官庁訪問を通じ学びました…。

冷麺：そんなことも学んでたんだ(笑)

みょうが：誰と一緒に働くかは、先輩の職員の方々、同期ともに本当に重要なことだと思っているから、私は今環境省で働けることにわくわくしている！冷麺とも今後仲良くしていくことに期待。内定者旅行が楽しみだ～。

冷麺：僕はみょうがと働くの少し怖いけどな…。まあ他の同期と先輩職員とは楽しく仕事できるって確信してるけど！

みょうが：ひどい…。

冷麺：いやいや、冗談だよ(笑)みょうがとも上手くやっていると今は信じてる。

《PART II》

熱すぎずクール過ぎない！(地球に優しい)きよとナッツとコロッケのゆるっと適温トーク

Q3. 今(官庁訪問を終えて)不安なこと

ナッツ：実際に内定いただくと、自分も面接して下さった職員さんみたいに頭キレッキレな人になれるのか不安だな。とりあえず本をたくさん買って勉強しようと積んでる状態にいるよ…。

きよ：そうだね、面接官の方々とお話している時は脳がフル回転してた。どんな本を読むの？

ナッツ：自己啓発本とか、わかりやすい税金の本とか…(言うの恥ずかしい😅)。

コロッケ：省員の方と話す時(いい意味で)本当に気が抜けないよね。なるほど～、社会人になるに当たって私も読んでおきたいかも。

きよ：(言わせてごめん笑)おー役立ちそう！たしかに自分で本とか読んで不安要素を少しでも解消していったらいいな。勉強でいうと私は英語のスコアを取っておきたいな。

コロッケ：いいね！同様に資格でいうと私は運転免許をやっと取得する予定！(笑)東京なら必要なさそうだけど、地方出向の際に運転できないと困るかな…と不安になって…。それぞれ不安な事もあるけど、うまく向き合って解消していきたいね！

Q4. 官庁訪問地方組あるある(宿、休日の過ごし方、移動手段など)

コロッケ：私は、宿は官庁訪問開始の前日夜から第5クールの次の日まで予約しておいて、随時支払うというかた

3. 内定者の「今だから言えること」

ちにしたよ～！（万が一途中で帰ることになった時のために…！）ちなみに場所は築地で、霞ヶ関までドア to ドアで20分以内だったよ。

きよ：その支払方法いいね、私は一括支払いで前日までキャンセルできるホテルにしたよ。コロッケも私も日比谷線上のホテルやったよね！電車1本で帰られるのが便利やった～。

コロッケ：なるほど、それもいいね！きよとは2.3駅違いだったよね！なんかもう懐かしい笑 日比谷線だと5号館直結だから雨の日も楽だよ。

きよ：既に懐かしいね笑 人事院が斡旋しているユースホステルに泊まった人は同志のルームメイトたちと仲良くなれたと聞いて、そういう過ごし方もいいなと思った！皆さんお休みの日は何してた？

コロッケ：確かにそれもありがたね^^私は院の同期や他省の人、東京の知り合いとご飯にいたり、某不動産会社で家探ししたり(気が早い笑)、図書館に行ったりしてた！みんなは？

きよ：図書館あるんだ！私も第1クールが終わった週末は東京の知り合いとご飯行ったり、あと表参道のキラキラしたおしゃれカフェ巡ったりして(笑)自分なりにリフレッシュできたのは良かったな！

ナッツ：僕はゴロゴロ過ごしたのはもちろん、好きな水族館に行ったりカフェでボーッとしたり。今思えば、官庁訪問でできた友達と会って相談してたら、もっと志望動機とか磨かれたのかなあとか思ったりするな。

きよ：それぞれ休日に調子を整えられたことが充実した官庁訪問に繋がったんやね！

移動手段はどうしてた？私は、行きは学割で新幹線、帰りは夜行バス使ってたな。

コロッケ：私は学割使って行き帰りとも新幹線にしたよ！なので帰りは第5クールの翌日午前になった！

ナッツ：今年は1人暮らししてる家から行ったけど、去年は高速バス使って安く済ませたよ。

コロッケ：そうだね！学割使ったり、バスを使ったり、金銭的負担を軽くする工夫は色々あるね。本書を手にとってくださった皆さんにも、体力、費用、時間のバランスを考慮した自分にあった方法で官庁訪問を乗り切ってもらえたらいいな。

◎宿選びおすすめポイントまとめ◎

- ・丸の内線又は日比谷線、千代田線上の最寄り駅
- ・夜遅くの帰宅に備えて駅近や治安の良い場所
- ・途中で帰ることになった際のリスクが低い支払方法
- ・約2週間の連泊ができる
- ・近くでコインランドリーが利用できる

《PART III》

生物多様性ならぬ内定者多様性！チャンプ・おが・すしの3者3様本気トーク！

Q5. 国家公務員／環境省職員として働くにあたり、不安に思ったこと、その解消方法

チャンプ：俺は環境省で働くにあたって、環境政策は目に見えた成果をあげることが難しいのではないかと懸念していた…。でも、官庁訪問中に職員の方から、環境政策を行っていく過程でさまざまな副次的効果が生まれるという話を聞いて、政策の目的を達成することはもちろん、政策を行うことそれ自体にも一定の価値があるのかなと思った！

確かに、環境政策は、政策目標の達成以外にも大きな意義を有するよね！

おが：私は環境学を専攻していなかったのですが、環境政策に対する知識が不十分かもしれないという不安があったかな～。この不安は、説明会や官庁訪問を通して、「環境政策の知識の有無は重要ではなく、これからどのように他領域と連携して環境政策を実現していくかが重要であるため、環境省は多様な人材を求めている」ということを実感できて、解消されたと思う！

チャンプ：俺も説明会行くまでは、環境省に入るためには環境についての専門的知識が必要なのかと思ってたわ～。

すし：専門知識もそうだし、僕の場合は「環境を守る」という漠然としすぎた目標のために辛い仕事に耐えられるかということが不安だったかな。特に「環境保護」に目覚める原体験みたいなものもなかったし。

チャンプ：確かに、「環境」って抽象的な概念だから、自分たちのやっていることの意義や目的がわかりにくくなる時もあるのかもね…。

おが：すしさんは、その不安をどうやって解決された（or されてない）んですか？

すし：うーん、正直言うとまだ不安といえば不安だけど、さっきあった副次的効果みたいに他分野の課題の同時解決に資する場合だったり、あるいは世界の潮流（＝環境課題の解決のために製品や投資の基準が変わってきている）に日本が乗り遅れないようにしたりとか、環境省の所掌の広さを（官庁訪問などで）知ってから、だいぶ具体的に考えられるようになって、不安も和らいだかな。

おが：そうなんです。すしさんが仰ったように、職員の方々のお話を伺っていると、これからの時代において環境が他の社会課題を解決する上でもますます重要になってくることを感じますね。

チャンプ：環境は社会や経済のベースだから、環境を良くすることは社会や経済を良くすることになるね！

Q6. 選考において席次や訪問日、大学は関係ない説を検証！

チャンプ：俺は環境省を初日に訪問したよ！純粋に一番行きたい省庁だったから初日にした～。2日目、3日目の訪問でも不利になることはないけど、初日に訪問すると、職員の方々に志望度の高さを伝えられるかな！

おが：そうだね！その通りだと思う！席次に関しては、訪問カードなどに書くことも、面接で聞かれることも全くなかったのだから、環境省の採用において席次は全く関係ないと私は感じたな～。

すし：席次・出身大学等は全く関係なく面接されているというのは感じたな。職員の方と楽しく話すことができるか、聞いたことを自分なりに考えて話を発展させていけるかみたいところが重要だったと思う。私は3日目訪問だったけど、チャンプの言う通り不利になったり扱いが雑だと感じたりすることは一切なかったな。みなさん真摯に面接してくださった。ただ、志望度の話になると「どうして3日目なのか」をきっちり説明できないと苦しくなるので、環境省が第1志望の人は1日目に訪問した方が、熱意が伝わっていいというのは本当だと思う。

おわりに

最後までお読み下さりありがとうございました。本冊子を通じて皆さまの環境省に対する理解が少しでも深まり、また関心が高まったとしたら、内定者一同大変嬉しく存じます。

本冊子の第2部では各内定者にとって環境省がどのような存在であるか問い、それぞれの回答を掲載いたしました。十人十色の答えから、内定者の多様性を感じ取っていただけたかと思います。と同時に、社会を良くするために働きたいという共通した熱い想いにも気付いていただけたのではないのでしょうか。

環境省のことをもっと知りたい！そう思っていただけなら、ぜひ環境省のHPにアクセスし、説明会等に足を運んでみて下さい。環境省の業務や職員の方々の想いを知る良い機会となること間違いなしです。

内定者一同、説明会や懇親会、ひいては官庁訪問にて皆さまとお会いできる日を楽しみにしております。

平成31年度環境省総合職事務系内定者一同

本冊子の記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、
環境省の意向を反映させたものではありません。

icon by iconpon.com

画像素材：<https://www.iconpon.com/>

(p.6, p.18, p.21の画像はiconpon.comの素材を改変して利用しております。)

Who's next?

